

# お金より愛情です

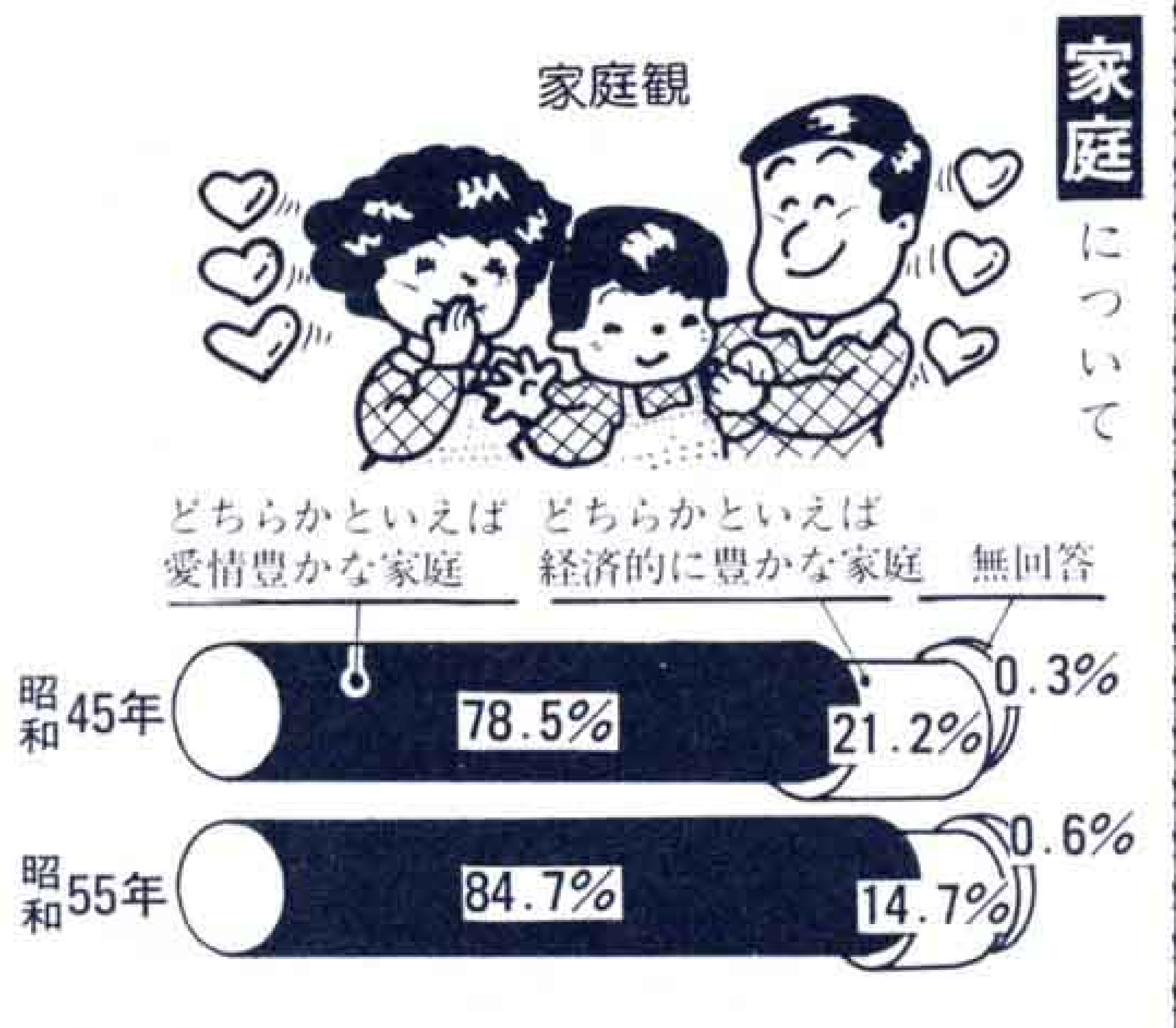
## 現代青少年の意識調査から

### — 10年前と比べると —

現在の青少年は、経済的な豊かさよりも愛情の豊かさを求めている。総理府が一昨年おこなった青少年の意識調査では、このようことが明らかになりました。十五歳から二十三歳までの男・女三千人を対象にしたこの調査は、家庭・学校・職場など、生活の中での連帯意識、人生観などを調べています。

さらに総理府では、この調査をもとに十年前の調査との比較もおこないました。この結果、現代の青少年には、人と人とのつながりよりも一層強く求めている傾向があります。

今回は、この調査の中から家庭・学校・職業生活などの意識の変化について紹介します。



### 家族と家庭生活 母親には「家庭中心型」を

家庭についての悩みや心配ごとを持っている青少年は1割程度と少なく、10年前に比べ、24.1%から10.4%へと減少しています。

家庭についての悩みや心配ごととして多くあげられたのは、「収入が少ない」(24.6%)、「親が自分を理解しない」(20.4%) などです。

両親との話し合いは、母とは非常に盛んであり、父ともかなり行われており、10年前と比べると、父母とも、よく話す者が増加しています。

子どもに対する望ましい父母の態度としては、子どもに対する理解を前提としたうえで、父親については厳父型(55.3%)、母親については慈母型(49.4%)が最も多く支持されています。これとは反対に、子どもを理解しないで何ごともしつかったり、自由放任の父母は望まれています。

つぎに、仕事や家庭に対する父母の態度としては、父には「家庭中心型」を望む者が58.9%、「仕事中心型」を望む者が40.7%ですが、母には、96.7%の者が「家庭中心型」を望んでおり、このうち家庭を何よりも大切にする母を望んでいる者が59.7%ありました。

10年前と比べると、「家庭中心型」の父を望む者は、47.1%から58.9%へと大きく増加し、一方「仕事中心型」の父を望む者は、52.0%から40.7%へと大きく減少し、順位が逆転しています。

家庭観では、家庭生活を送るうえで、経済的に豊かなことよりも愛情の豊かさを大切にする青少年が84.7%の多数を占め、10年前の78.5%より増加しています。

### 学校生活

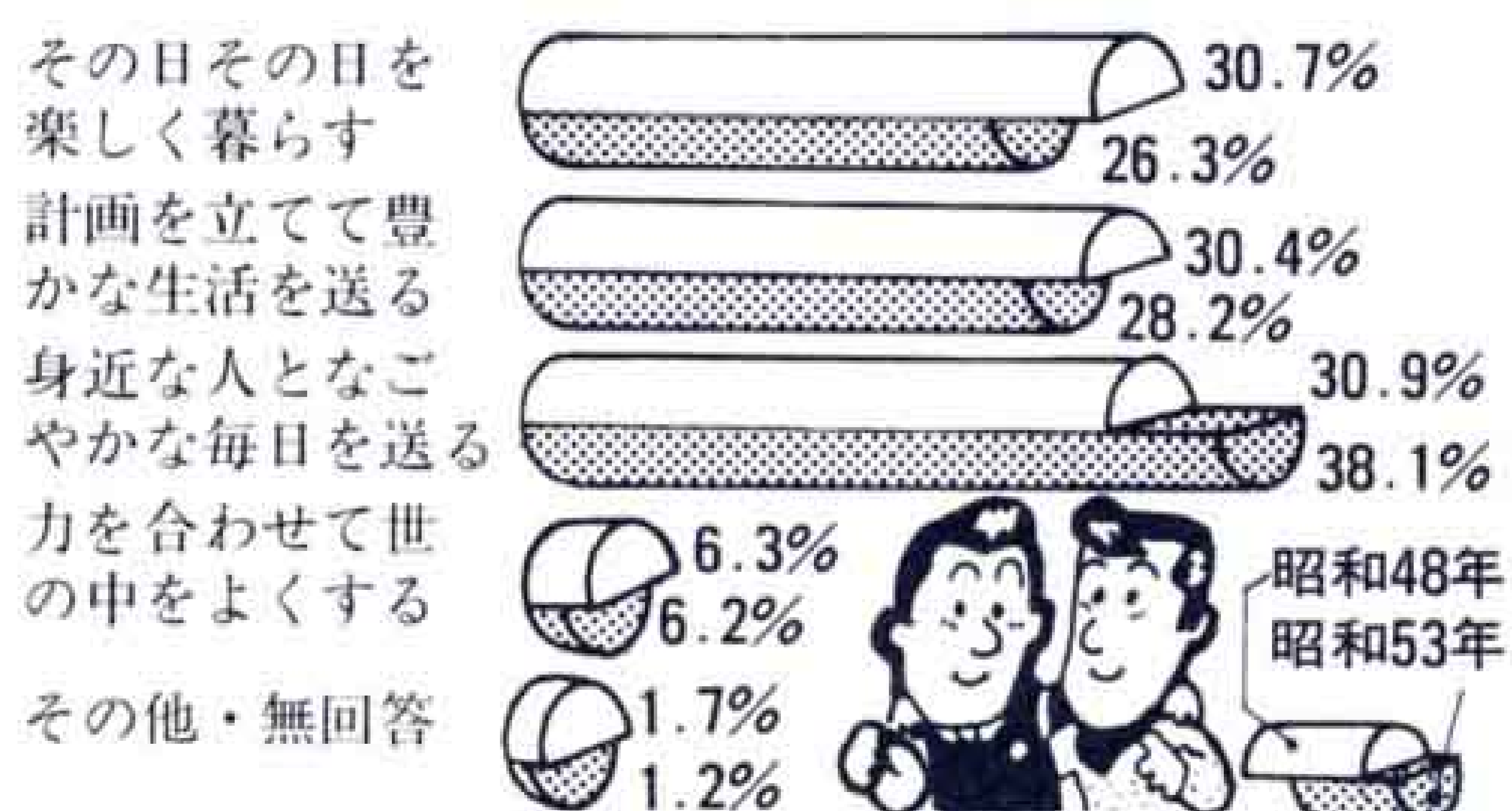
#### 望ましい先生は「接触型」

次に、学校についてですが、3ページの表でもわかるように、今通っている学校に満足している青少年は75.4%、不満は7.1%でした。

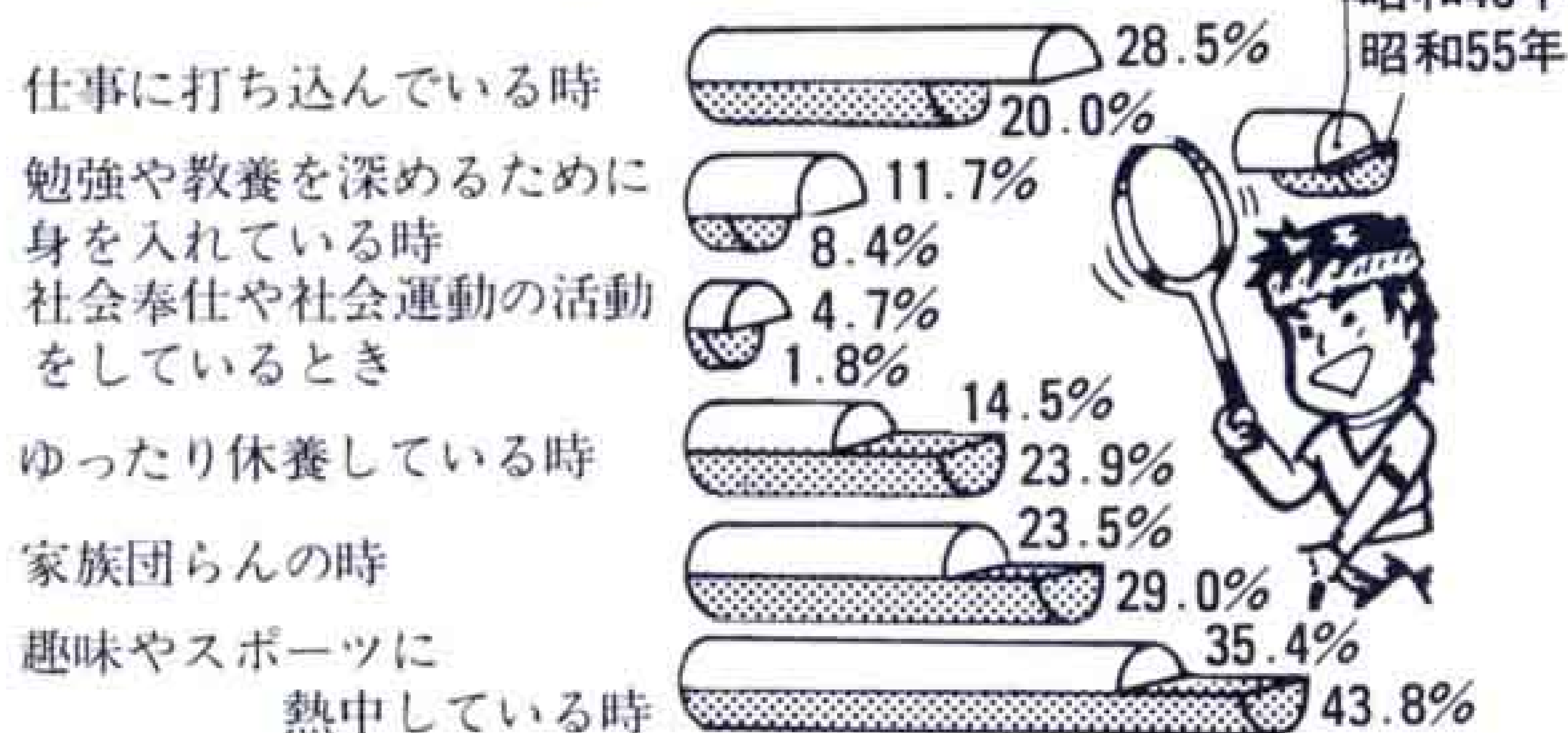
学校への不満の内容は、「授業や授業科目」及び「先生」が多く、10年前とほぼ同じです。

望ましい先生としては、「サークル活動を通じて生徒と接触する先生」

#### 青少年の生活信条(20~24歳)



#### 生きがいを感じる時(20~24歳)



が53.5%で最も多く支持され、「生徒の家庭や一身上のことにも相談のしてくれる先生」が31.9%で、これにつき「授業や学問を重視する先生」は13.9%にとどまっています。

これを10年前と比べると、「接触型」と「世話型」は、ほとんど変わりませんが「授業重視型」は減少しています。

## 職業生活

### 「才能が生かせる職場」を希望

現在の職場に満足している青少年は66.2%にのぼり、10年前の61.1%より増加しています。

職場への不満の内容は、10年前と同様、「賃金や待遇」(35.5%)及び「労働時間・休暇」(32.2%)が多くなっています。

なんでもうちあけて話せる上役を持つ青少年は38.5%で、10年前よりやや増加。

仕事への定着意識をみると、青少年の約半数は「今のままでよい」と考えており、仕事や勤め先をかわりたいと思っている者は25.6%あります。希望する職場としては、10年前と同様、「自分の才能が生かせる職場」「気持のよい人が多い職場」「将来の不安がない職場」が上位を占めています。

勤労観についてみると、「働くことは社会人としてのつとめである」という者が38.4%で最も多いが、10年前と比べるとやや減少しています。

「お金を得るために働く」者は、28.1%で、「才能を伸ばすために働く」の32.8%を下回っています。

## 団体生活・友人関係

### 「仲間を得たい」が第1位

団体・グループに加入している青少年は38.5%で、10年前の35.2%よりやや増加。

加入団体の種類は、「スポーツ」(56.8%)と「趣味・教養」(39.9%)の団体にほとんど集中しています。

団体加入の動機は、「よい仲間を得るため」(57.3%)が第1位で、「特技を身につける」(33.3%)、「余暇を有効に生かす」(32.2%)と続いています。心をうちあけて話せる親しい友人を持っている青少年は93.4%に達しており、10年前の75.6%に比べ大きく増加しています。また、親しい友人を2～3人持つ者が最も多く、(58.1%)。

親しい友人を得た場所は「学校」(88.5%)が圧倒的に多く、「職場」(18.6%)がこれについています。

これ以外の「グループ活動」や「近所」「盛り場」は少なく、青少年の交友範囲が「学校」と「職場」に限定され、10年前と比較しても広がりを見せていないことを示しています。

高度成長期から安定成長期へ。経済や環境の変化は、青少年の意識にも大きな影響を与えています。

### 健全な青少年の育成は

家庭内暴力や校内暴力が社会問題となっている現在ですが、反面、青少年が家庭や学校に対して、愛情を求めているのも事実です。健全な青少年を育成するには、まず、大人の理解と協力が第一では……。

## 勉強も大切だが…

吉原  
高校教諭

佐藤嘉邦さん



昔の高校生と比べると、現在の高校生は、勤労意欲や我慢強さに欠けていると思う。奉仕作業や日常の清掃などでもこのようなことが感じられる。家庭においても同じではなかるうか。勉強も大切だが、日常生活の中での基本となる「しつけ」も大切。環境的には恵まれ過ぎていて子どもたちにとって、「きびしさ」というものを教えることも必要では……。

## 友人はすばらしき財産

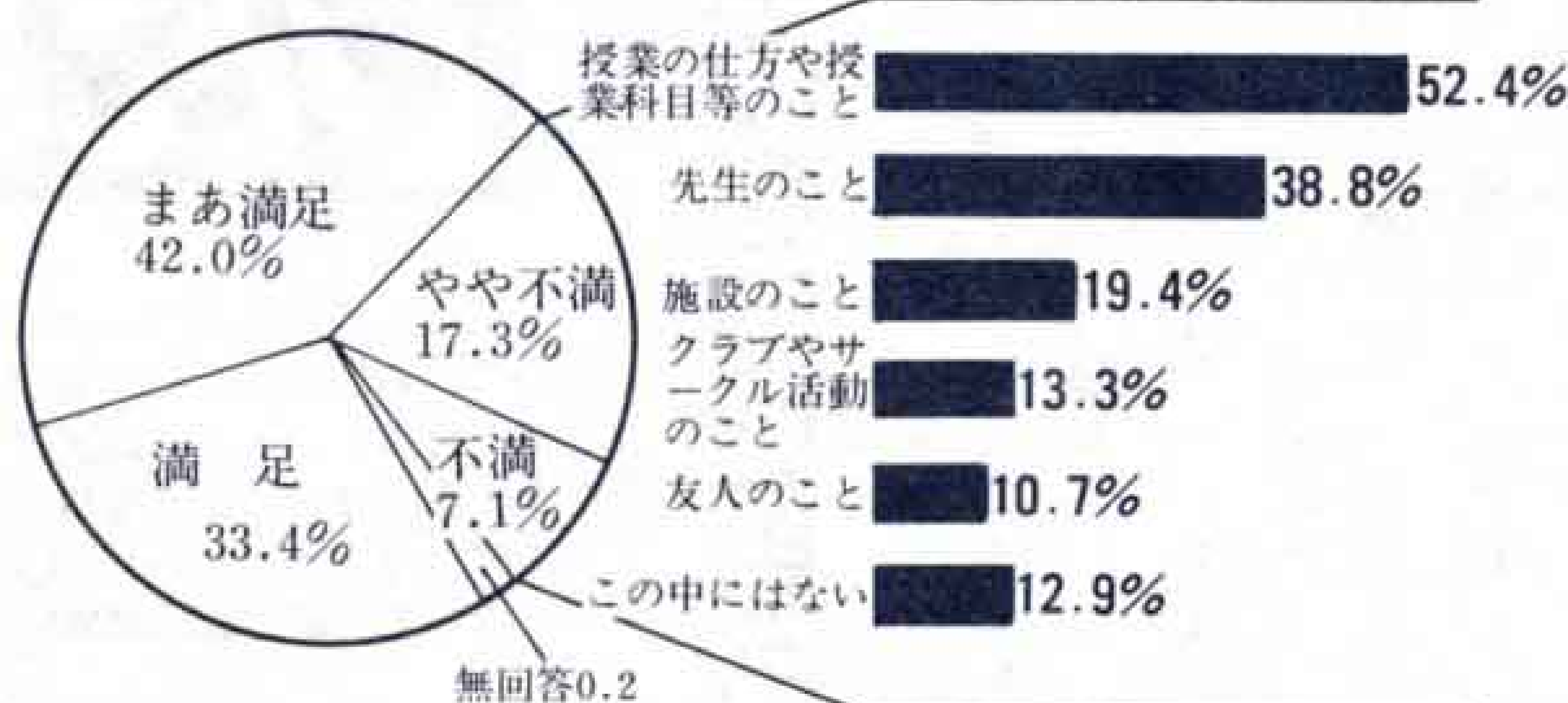
市社会教育課  
青少年係長

鈴木常寿さん



生活環境や社会環境の複雑化は、青少年の意識や指向にも表われています。昨年、市がおこなった青年の意識調査では、約八割の青年が悩みを持っていると答えています。急速な社会環境の変化は、青年の孤立化をもすすめているのではないのでしょうか。青少年にとって、良き友だちや相談相手がいることは、最もすばらしい財産だと思います。

学校生活に対する満足度と不満の理由(昭和55年)



望ましい先生像 (%)

